

2. 第2回研究会 (2001年10月24日、於リバティークラブ)

谷 今日、実は予定になかったのですがお集まり頂いたのは、ここに紙がありますけれども、このスポンサーである社会安全研究財団というところから中間報告をなささいと言われて、実は余り作業していないものですから、一応、資料を揃えたりそういう準備作業はしているのですが、全く内容を言わないのもなんですから、この間の議論と、今日もう一回議論して頂いて、その内容を報告しようと思っておりますが、書類はとにかくつくらなければいけないので、私の方で書類はつくりました。今までの書類をちょっと切り貼ったところと、それから、後半は実際に今までこなしたスケジュールと、それから、どういう作業をしたかということを書いて、その結果、どういうことがわかったかというのは、書かないで口でしゃべろうと思っております、今日、議論して頂くことを期待しています。

特に9月11日以降、安全に関する大きな根底が変わってしまいましたので、その辺のところをちょっと議論して頂いて、こちらとしても少し心構えを変えないといけないのかなと思っておりますので、今日は宜しくお願いします。

まず、この社会安全研究財団の方の資料を見ていただきますと、日時は昨日と今日やって、色々な研究プロジェクトが動いているので、我々の当たっているのは、下にありますように、今日の2時半なんですね。ですから、ここを2時ちょっと過ぎには出なければいけないのですが、A4で2、3枚程度ということなので、そんなに内容に立ち入って報告する必要はないと思うのですが、25分程度ということなので、これをざっと説明しても10分程度でしょうから、色々質問が来ると思っていますので、ある程度そういうのうまく答えられるように、頭を整理しておかなければいけないなと思っております。ただ、内輪の方々に報告するということなのだと思います。

今日つくってまいりました資料は、研究の目的、目標辺りは、以前から書類で出しているものです。研究部会とワーキンググループもちょっと手直した程度で、これは大きく変わっておりません。

研究の方法については、ここを変えて今日出そうかどうしようかと思ったのですが、これを今まで通りにしておいて、それをどういうふうに変えようかと検討しているかと口でしゃべろうと思っております。というのは、アンケートをどういうふうを実施するかという問題がちょっとありまして、今、アンケートで何が怖いかと聞いたら、テロとか細菌テロとか狂牛病とかと言うのに決まっているので、ですから、ちょっとその辺を工夫しないといけないなと思っております。

スケジュールについては、そこの点線のところまでこなしてきたということで、ちょっと後ろに日付をずらしてあります。9月と最初していたのですけれども、10月までが調査期間。ワーキンググループ会議は、伊藤さんと私と朴川さんは別のプロジェクトで時々会っていますので、その時に話した日を、若干しか話していないのですが、その日を入れて、一応ワーキンググループもやっていますということをしていきます。そっちの方も年内にある程度目処がつくので、年明けはこっちの方に本格的にかかりたいと思っています。

それから、3ページ目が、これまででどういう成果が上がったかということで、資料については、もともと伊藤さんが専門なので、かなり伊藤さんが資料は持っておられるということと、私もちょっと気をつけて本なんかを買ったり、論文集を手に入れたりというようなことをしています。

それから、最初は新聞を調べるのを縮刷版でやろうということでした。でも前にCDが出ていると聞いていたので、CDを買ってやろうかと思っていたのですが、商用データベースの方が…、これは全文入っているわけじゃないのかな。

伊藤 全文入っています。写真とか図なんかはデータとしてではなくて、FAXサービスというのがあります。FAXで実際の記事も取り寄せることができます。

谷 伊藤さんが日経テレコムがいいということだったので、日経テレコムの方の申し込みをしました。まだ申し込みを出した段階なので、実際に使える状況になっていないのですけれども。

吉川 僕は使える状態に今なっているのがあるから、いつでも使えますよ。

谷 なるほど。それができ次第、学生にざっと検索させようと思っております。そうすると、記事がざっと出てくると思います。

それから、3番目のアンケート。これがちょっと今日議論して頂きたいと思うのですが、どうしたらいいか。

恒松 対象は特定しないで一般にということですか。

谷 市民アンケートと専門家ヒアリングと両方やろうと思っていました。専門家の方はそんなに数をやらなくて、例えば20人なら20人という形で、ある程度この分野に詳しい人と、それと一般市民は何かからランダムに選んでやってみようかなと思っていましたのですけども。あるいはこういう会社に頼んでしまうという手もあるんですよ。

東郷 専門家は10人とか20人とか、一般はどの程度のことを…。

谷 お金を計算した時に…。

東郷 そっちの方からですね。

谷 郵送費を8万円計上していますね。80円だとすると1,000人位は出せる。多分、せいぜい返ってきても6割位でしょう。

吉川 ただの郵送ではそんなに返ってこないです。2、3割です。

伊藤 郵送して、訪問して、回収して、6、7割という感じですね。

谷 どういうやり方がいいか、ちょっと考えなければいけないですけど。1,000通も出すというのは、相当大変な労力ですね。

恒松 大変なことですよ。

谷 以前、仕事でやっていたのは、大体200~300通。返りやすいように、例えば返してくれた方に後で何か送るとか、そういうことをやっていたりしたこともありますけど、そうすると回収率がガッとよくなりますけどね。

東郷 ちょっとしたことですね。

吉川 なかなか自覚的に回答してくれる方というのはいないもんですよ。別に悪意はないんですが、時間が忙しいから、そんなことに時間をかけてもらえない、皆さんそういう気持ちなんでしょうね。

谷 私のところもアンケートが来ますけど、半分位しか答えていないですね。

恒松 専門家でありながらね。

谷 専門家の方はある程度お願いしてやれるので。

恒松 これは回収はできると思いますけどね。

谷 その辺もちょっと御相談したいところですね。

それから、インターネットで「都市・社会安全」に関係しそうなWEBを、今、WEBサイトリスト集とカリック集とか色々なものから拾っています。あと、検索エンジンで学生にパーッと最終的にはかけさせようと思っているのですが、「都市・社会・安全」とかけて出すと、かなり関係ないのも出てくるかも知れませんが、そこのスクリーニングが結構大変だと思います。そこにアンケートを出すという手もあるんですよ。色々な意見の交換のために、ホームページにメールのアドレスが載っているところが割と多いですから。分析は、まだ手がついておりません。

伊藤 インターネットのアンケートというのは、例えばこういうところを見ている人というのは、興味がある人なわけですね。ですから、結果が偏る可能性も結構あります。半専門家みたいな人が見えていますから。

谷 特に今は炭疽菌の問題とか狂牛病の問題とかで、結構その種のホームページはよく見られているのではないかと思いますけどね。

それで、今日は例のテロ以降起こったことを踏まえて、どういうふうに舵を切ったらいいか、議論して頂きたいと思うのですけれども。

吉川 アンケートで思いついたんですが、ずっと系統的によくやっている国民アンケートで、総理府の意識調査というのがありますよね。大体、毎年総理府のアンケートというのは5本や10本ぐらいはあって、その中の項目である程度系統的にとれる項目というのが必ずあって、僕は、かすかな記憶ですが、このテロの問題は一応置いておいて、今までの「安全」に対する意識がどのように変わってきたかというのを、まず最初の一次的な情報として、国民意識を総理府のアンケートなんかを少し整理してみるというのは、一つ基礎的な情報として必要かなと思っています。

谷 これは毎年同じ項目を大体聞いているんですか。

吉川 ええ。違う項目と共通項目と大体ありますよね。特に阪神・淡路があった辺りから、結構「安全」というのはそれなりに継続項目に入っているのがあるんですよ。

谷 これは過去のものはどこへ行けばあるんですかね。

吉川 経済企画庁の図書館というのが、僕の所から近いからなんです、あるのを記憶していますし、政府統計の冊子というのは大体役所ですと置いてあると思うのですが。

谷 今、経済企画庁の図書館ってどうなっているんですかね。

吉川 誰でも入れますが、一応、身分証明書が…。

谷 経済企画庁じゃなくて…。

吉川 あ、今、名前が変わってしまいましたが、同じ場所ですよ。あそこの西何号庁舎でしたか。

谷 昔の旧省庁のまま、図書館というのは独立にあるんですかね。

吉川 ええ、多分そうです。

谷 合併とかしないんですかね。

恒松 合併はしないでしょうけど、名前は変わっているでしょうね。

吉川 内閣府何とかという名前になっています。

恒松 テロ以降、随分安全性ということに対する関心も強まったでしょうし、対象も、大体狂牛病なんていうのは安全対策という問題ではないような感じもするんですけどね。そうだったんですけど、今やもう大変な問題ですよ。あれは農林省と厚生省がだらしなからいけないんですよ（笑い）。だと言うと具合が悪いかも知れないけども、行政の対応のまずさだと思うんです。まあそれも一つの安全性かな。

奥田 最近は新聞社の世論調査というのが、従来と違ってみんな電話ですね。あれが非常に増えてきているけれど、そういう各社の世論調査のデータとかそういうものは、国会図書館で僕はあると思うのです。以前は僕は国会図書館を物凄く利用して、最近は行っていないのでわからないのですが。それから、一番素朴な新聞の切り抜きの部屋が前はあったんですけど、そういう所の担当者に聞くと、全てそういうデータを出してくれます。これは正にここの財団の方からちょっと紹介してもらえば、国会図書館がデータを全て、特に議員用だったらすぐに入ると思うのです。新聞の切り抜きを含めて情報が入ると思うんですけど。

吉川 新聞社なんかのアンケートをやったということでしたら、さっきの日経テレコムで、記事に必ずありますから、それで検索すれば、殆ど全ての新聞紙から結果は出てきます。票そのものは、またそこからもう一つ突っ込まなければならないのですが、まずどういうものが存在したかは、日経テレコムで全部わかります。

谷 でも新聞社のアンケートというのは、例えば内閣の支持率なんていうのはずっと追えますけど、「安全」ということでは、余りやっていないですね。

奥田 時系列では無理にしても、近來の取材とかはわかると思うし、意外と過去のものももう一度使われてきているのかも知れないです。なぜこんなことを言うかということ、割合そういうマクロなデータというのは、努力すれば入手できると思うので、それに近い調査というのは、何かお金がもったいないと思って、だから僕は、谷さんが言われる専門家調査というところをもうちょっと重点を置いて、それから、準専門家ということもないのですが、有識市民調査みたいな形にして、100票の有効票があれば充分です。その回答によって、面白そうだったら、その人達にもう一度第二次のインタビューを含めて、あるいは電話で、そういうフォローアップをできると思うので、有効票100あれば、僕は充分だと思います。だから、マクロなのはそっちに委ねるといふ…。

それから、「新聞社の調査では『安全』についてこういう結果が出ていますけれども、あなたはそれについて」という、一種のデルファイ調査みたいな形のやり方もありますよね。

谷 これは専門家と言うと、例えば伊藤さんの入っている、何とか…。

伊藤 警察政策学会です。

谷 ああいうところで名簿が何かでピックアップして。

伊藤 名簿はありますね。あとは犯罪学会というのに入っていますが、どちらかと言いますと犯罪学会の方は、法医学関係、医者関係のものです。政策学会の方は警察とあとは大学の先生、法律の関係者が多い。結構偏っているわけです。ですから、両方からバランスよくというのが必要かと思いますが。

谷 では、アンケートはそういうことで、今、奥田先生のアドバイスを頂きましたので、マクロなのはできるだけ新聞とか色々な既存のアンケート、あるいは総理府のアンケートなんかで補足して、少し専門家の方を充実させて…。

東郷 私もその方がいいと思います。さっき言われた専門家のヒアリングはそれはそれとして、有識市民と言うのも変だけど、その場合は、今、奥田先生が言われたように、100人もあれば充分だということからすれば、むしろ一般的なことだからかなり当たりをつけて、そのかわり、そういうことでお願いすれば、回収率もかなりいくでしょう。だからその方がいいかなという感じがしますね。

伊藤 先程の国会図書館の話ですが、新聞記事であれば日経テレコムで大体当たれると思うのですが、その外の各省庁が出しているような研究報告書みたいなもの、これに結構いいものがあるんですよね。ただ、私も自分の研究をやっていた時によく行きましたけども、あそこは凄く大変です。コピーも全部自分でできないんですよね。附箋を貼って、「これをお願いします」とやると、例えば翌日にならないともらえないとか、しかも1枚30円ぐらいすると思うのです。もし、先程奥田先生がおっしゃったように、こういう研究会でやっているのだから、その辺はちょっと自由にコピーさせてくれとか、本を貸してくれとかいうことができるのであれば、それをやって頂いた方が全然効率が違うと思います。まともに行ったら資料収集に大変な時間がかかってしまいます。

吉川 私が経済企画庁の図書館と申し上げたのは、僕も企画庁に3年間ほど勤めていたことがあるというので、今でも知り合いがいると、一応入るには身分証が必要なんですけど、図書館に行けば、「ちょっとコピーさせてよ」というので非常に便利なんです。国会図書館へ行ったら、一日仕事になってしまうけども、そういう意味では、やっぱり個別の役所に行った方が早いんですね。それで誰か知り合いをたどった方が。だから、企画庁なんかだったら僕がやってこれます。一応、あそこももともと総理府だったから、総理府の統計はみんなあるんです。

奥田 国会図書館は、正に河野さんのところでちょっと口をきいてもらえば…。議員さんの関係のあれだと言ったら、絶対大丈夫なんです、フリーパスですよ。

谷 そういうことは可能ですか。

河野事務局長 前はうちの機関誌などが国会図書館に入っていましたから、そういう関係で館長とか何とかはよく存じ上げていたんですけど、財団の名前になってからは行き来がないんです。前は、「この号は来ていませんよ」とか、よくあれがあったんですけどね。

奥田 でも、紹介はして頂くと、抜群に違うと思うので。

谷 そうでしょうね。

河野事務局長 前は磯村さんのルートで、国の資料をどうするのだというような問題で色々。

伊藤 特にこういう犯罪に関する資料というのは、国会議員と弁護士、法曹関係者、それから大学の教授でないと出しませんという書類が国会図書館に大量にあるんです。特に判例の話とか裁判の記録とか、本来見れるんですけど、一般には見せないというのも結構あるので、それはやはりそれなりのルートで行かないと。

奥田 警察研究所だってありますよね。

伊藤 ありますね。

奥田 三番町かどこかに。今は違うんですか。

伊藤 柏に新しく、東大もちょっと移りましたが、あっちに移ってしまいましたね。

谷 あその図書館がありますよね。

奥田 あるはずですが、勿論。

伊藤 私、古い方は行ったことがありますけど、図書室みたいなのがありましたね。

谷 東京だと学生が使えないんですね。

では、アンケートの方は、何とかそれで大体見えてきたような気がするんですけど。

吉川 学生というのは、谷さんのゼミ生は使えないけど、もう少し、学生のインターンみたいなものでよければ使えますよ。

谷 アルバイトでね。それは可能ですね。

吉川 今、結構インターンを目指して色々な大学に、勿論大学がインターンを派遣するのもあるけど、学生がインターンを、人材派遣と言ったらちょっと大げさだけど、それをやっているグループがあって、私共も実は仕事として成田空港でのアンケートなんかをやった時には、そういう学生を使うと、すぐに対応してくれます。

谷 学生の人材派遣みたいなものですか。